

# 総会報告

## 第6回定時総会報告

日 時：平成28年3月22日(火) 13時00分～14時30分

会 場：本郷瀬川ビル（東京都文京区本郷2-35-10）

出席代議員数：56名（内委任状39名）

（代議員数総数：56名，総会成立の定数29名以上）

議 案：

- |                |         |
|----------------|---------|
| (1) 平成27年度事業報告 | 【第1号議案】 |
| (2) 平成27年度決算報告 | 【第2号議案】 |
| (3) 平成28年度事業計画 | 【報告資料1】 |
| (4) 平成28年度予算計画 | 【報告資料2】 |
| (5) 平成28年度役員の方 | 【第3号議案】 |

議 事：

午後1時00分，定款第15号に基づき高西淳夫会長が議長となり，出席者が定款17号に定める定足数に達しているとの旨報告の上，第6回定時総会の開会を宣した。

次いで，以下の各議案について提案および詳細な説明があり，逐次審議を行った結果，いずれも原案どおり異議なく可決された。

各議案の内容は以下のとおり。

### 【第1号議案】

#### 平成27年度 事業報告

（自 平成27年1月1日 至 平成27年12月31日）

#### I. シンポジウム（継続事業1）[担当：事業理事／学術講演会理事]

##### 1. ロボット教育セミナー

- (1) ロボット教育セミナー「からくり工作教室」  
期 日：8月2日(日)江東区深川江戸資料館  
対 象：小学生 参加無料  
講 師：佐々木三郎氏，榎本誠治氏(日本メカニズムアーツ研究会)  
内 容：からくり人形の実演を交えた解説，参加者によるからくりの製作と発表  
参加者：40名

##### 2. 学術講演会

- (1) オープンフォーラム（市民向けを含む一般公開企画 聴講無料）を15セッション開催した。
- ・我が企業の Robot セッション ～学生へ向けての会社情報～
  - ・ロボットの社会的価値を考える
  - ・公開シンポジウム「ロボット革命実現に向けて」
  - ・学生と企業のための交流サロン
  - ・2014年度 COCN 災害対応ロボットの社会実装プロジェクト：最終報告
  - ・読んでおもしろい学会誌・論文誌 ～学会誌読者からの提案と通る論文の書き方～
  - ・産業用双腕ロボット Baxter を用いた ROS ワークショップ
  - ・パネル討論「ロボット事業における中小企業産学連携の在り方」
  - ・廃炉に向けた日本原子力学会との連携と課題
  - ・ロボット研究室 火星探査ロボットを作ろう！
  - ・RSNP を利用したロボットサービスコンテスト2015
  - ・公開シンポジウム「ロボット技術者育成の課題と解決法を探る」
  - ・このロボットがすごい2015
  - ・人はロボットを背負えるか？ ありたい社会とあるべき政策
  - ・RSJ2015 オープンフォーラム見学ガイド

##### 3. インターナショナルロボットハイスクール2015 (IRH2015)

期 日：12月4日(金)，5日(土)(国際ロボット展2015会期内)  
会 場：東京ビッグサイト 会議棟6階605,606会議室  
内 容：国内外の高校生を対象に，ロボットの基礎・研究に関する講義を聴いてもらい，国際ロボット展2015の展示の調査・研究を通じて，最前線の技術に触れてもらうとともに，その研究成果を発表してもらった。  
参加者数：13校，115名(国内7校，34名，国外：6校，91名)

##### 4. 国際ロボット展2015 (iREX2015) ブース出展

期 日：12月2日(水)～5日(土)  
会 場：東京ビッグサイト  
内 容：国際ロボット展2015 (iREX2015) にブース出展を行い，日本ロボット学会の活動紹介を行った。  
来客数：250名

#### II. 学会誌（継続事業2）[担当：学会誌理事]（定款第4条2号）

学会誌第33巻1号～10号を発行し，会員に配布した。各号の特集テーマは次のとおりである。

- |         |                                 |
|---------|---------------------------------|
| 第33巻1号  | 水圏における生物模倣型移動ロボット               |
| 第33巻2号  | データサイエンス研究のロボティクス応用に向けて         |
| 第33巻3号  | ロボット教育論文特集号II                   |
| 第33巻4号  | 今更聞けないロボットの基礎と未解決問題 一次世代へのメッセージ |
| 第33巻5号  | 製造業向けロボット                       |
| 第33巻6号  | 大型機械のためのヒューマンインタフェースデザイン        |
| 第33巻7号  | 第32回日本ロボット学会学術講演会論文特集号          |
| 第33巻8号  | ロボット関連の実験特区の取り組み                |
| 第33巻9号  | 次世代アクチュエータが描く未来像                |
| 第33巻10号 | ロボットのための地図表現                    |

今年度も，水中生物模倣，データサイエンスの応用，教育，基礎と未解決問題，製造業用ロボット，ヒューマンインタフェース，実験特区，アクチュエータ，地図表現など，多方面にわたり魅力的な企画を会員に提供できた。特に第33巻5号は論文と解説記事を融合した総合特集であり，第33巻1号に実用技術紹介2編，第33巻4号に随想3編・展望1編，第33巻5号に随想1編・展望1編，第33巻9号に展望2編，第33巻10号に事例紹介1編を含むことを特徴として挙げられる。また，「今更聞けないロボットの基礎と未解決問題 一次世代へのメッセージ」に対して，若手会員から多分野にわたり継続的に続けてほしいとの反響もいただいた。9年めを迎えた学術講演会論文特集号は，九州産業大学で開催された第33回学術講演会での講演論文から，新しいコンセプトの提案，優れた学術成果，有用な技術に対し，582編の発表から115件の論文投稿を推薦され47件の投稿を得て，7月22日現在「採録可」と判定された10件の論文を学術講演会論文特集号に掲載した。

年間の論文投稿件数は53件（前年度123件），判定結果は採録可48%（50%）であった。判定までの期間は平均113日，最短54日，最長329日で，掲載までの期間は平均285日（301日）であった。なお，評価点項目別の採録率は，新規性10%，有用性60%，提案性30%となっている。

一般記事に関しては，書評，ロボティクス関連の学会への参加報告，ロボット関連のイベントの運営に関する記事などを掲載した。学会および学会誌の広報普及活動として，ロボコンマガジンにロボット学会協力記事として中高生から一般向けにロボット研究・技術について紹介する記事を掲載しており，その執筆者を推薦した。ロボット工学の位置づけを一般の方々にもご理解いただくため，学術的な研究紹介とともに親近感を持つ成果や実用的な研究紹介を合わせて掲載されるようにした。

日本ロボット学会の和文誌の改革を周知するために，10回にわた



り改革の趣旨（査読小委員会委員長のメッセージ）と ScholarOne Manuscripts™ による査読システムと新査読基準（4分野に分けて独立査読）を10回にわたり掲載している。また、昨年の学術講演会では、実施した「オープンフォーラム：日本ロボット学会会誌（和文誌）の改革～査読方針、査読手順～」の続きとして、今年の学術講演会では、「読んでおもしろい学会誌・論文誌～学会誌読者からの提案と通る論文の書き方～」を2.5時間にわたり実施した。多数のご提案とご意見をいただき、非常に有益なオープンフォーラムになった。

広告の年度集計結果に関しては、学術講演会での展示企業などへの広告勧誘活動などを実施し、件数は一昨年度62件、昨年度56件から、今年度59件と多少持ち直している。金額は3,934,656円であり、年度目標金額400万円に対して98.0%となり、目標に到達しなかったが、金額ベースでは昨年（金額3,361,384円）から微増している。これまでの勧誘活動だけでなく、掲載広告のコンプライアンスチェック体制を強化しつつ、新たな広告プランを模索し続けており、今後、広告出稿と論文投稿のインセンティブを連動させるなど、実験的なものを含めた施策を打っていく予定である。

III. 欧文誌（継続事業3）[担当：欧文誌理事]（定款第4条2号）

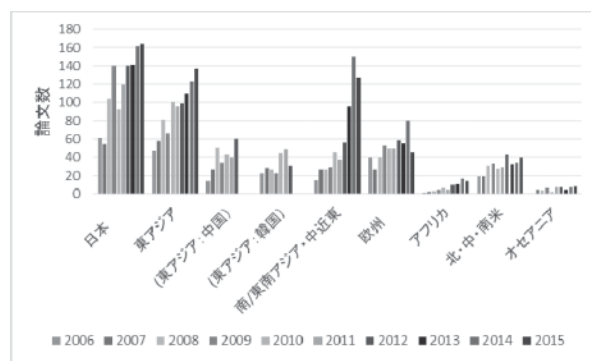
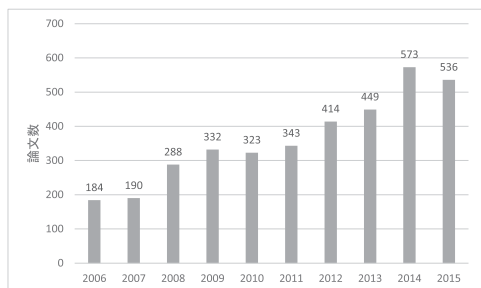
1. 欧文誌（Advanced Robotics）編集・発行

Vol. 29を発行した。各号の詳細は以下のとおりである。

29/1	2015	Jan	Cutting Edge of Robotics in Japan 2015 (1) (8 papers/1-113)
29/2		Jan	Regular Issue (3 papers/115-146)
29/3		Feb	Disaster Response Robotics (2) (4 papers/147-208)
29/4		Feb	Regular Issue (6 papers/209-299)
29/5		Mar	Humanoid Robotics (1) (7 papers/301-384)
29/6		Mar	Regular Issue (4 papers/385-447)
29/7		Apr	Cutting Edge of Robotics in Japan 2015 (2) (7 papers/449-514)
29/8		Apr	Regular Issue (4 papers/515-571)
29/9		May	Humanoid Robotics (2) (6 papers/573-656)
29/10		May	Regular Issue (3 papers/657-698)
29/11		Jun	Regular Issue (4 papers/699-741)
29/12		Jun	Regular Issue (5 papers/743-814)
29/13		Jul	Continuum Robots and Manipulation (6 papers/815-899)
29/14		Jul	Regular Issue (4 papers/901-946)
29/15		Aug	Regular Issue (5 papers/947-1013)
29/16		Aug	Regular Issue (4 papers/1015-1079)
29/17		Sep	Regular Issue (5 papers)
29/18		Sep	Regular Issue (5 papers)
29/19		Oct	Regular Issue (5 papers)
29/20		Oct	Regular Issue (5 papers)
29/21		Nov	Robotic Sensor Skins (5 papers)
29/22		Nov	Regular Issue (6-7 papers)
29/23		Dec	Regular Issue (5 papers)
29/24		Dec	Regular Issue (6 papers)

2. 論文の投稿、査読の状況

平成27年（2015年）における年間論文投稿総数は536件（新規投稿論文・374件、再投稿論文・162件）であった（下表参照）。投稿論文の採択率は、29.62%であった。

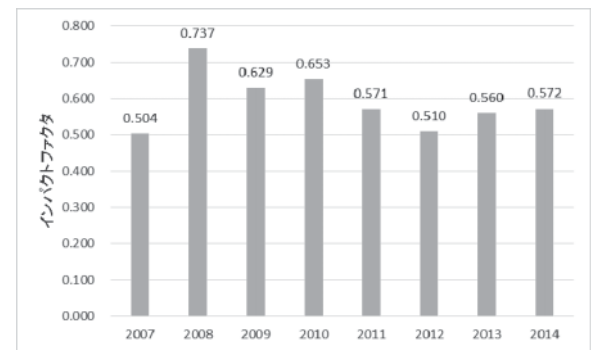


3. 企画 / 編集 / 発行作業

投稿論文数の増加を目指して、日本の優れた研究を世界に発信する特集号「Cutting Edge of Robotics in Japan」を企画し、学術講演会論文発表者への論文投稿を呼びかける活動を行った。

4. 国際学術誌としての認知度と評価の向上

Institute for Scientific Information (ISI) 社の Citation Index (インパクトファクタ) の推移を以下に示す。2010年以降減少していたが、近年徐々に増加傾向である。今後も Taylor & Francis 社との連携を通して、インパクトの高い論文を増やし、このインパクトファクタの増加傾向を維持していく。



5. 共同事業者である Taylor & Francis 社との契約・交渉

以下のような契約内容の更新を行った。

2015年（Vol. 28）年間発行数：24号

1. 会員全員の電子購読料金 26,664ユーロ/年
2. RSJへ支払われる編修料 15,000ユーロ/年
3. プリント版 会員価格 400ユーロ/Volume

採択された投稿論文は、掲載号発行前に Taylor and Francis により電子出版され、閲覧・引用が可能となっている。採択決定から電子出版までは、早ければ1カ月以内で対応可能である。2015年は投稿から第1回目のディビジョンまでの平均日数は66.70日である。多くの投稿論文は2回目の査読で採録の可否が決まるため、投稿から最終ディビジョンまでの平均日数は115.23日となっている。

IV. 調査・研究（継続事業4）[担当：企画理事]（定款第4条3号）

前年度から継続して、以下の調査・研究専門委員会活動を実施した。

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
ロボット哲学研究専門委員会	上出寛子	2015年4月	I種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014年9月	I種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	岡田浩之	2014年8月	II種
生活創成支援ロボティクス研究専門委員会	小笠原司	2013年5月	II種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012年4月	I種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010年3月	I種

関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009年4月	I種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009年4月	I種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	木口量夫	2008年4月	I種
北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
カー・ロボティクス研究専門委員会	大日方五郎	2008年4月	I種
ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

なお、「安心ロボティクス研究専門委員会」(委員長:新井健生),「RT機能安全研究専門委員会」(委員長:山田陽滋)は2015年3月末で、それぞれ終了とした。

#### (2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

#### (3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

#### V. 表彰(継続事業5)[担当:企画理事](定款第4条4号)

2015年9月第33回学術講演会において、学会誌論文賞3件、Advanced Robotics Best Paper Award 3件、実用化技術賞2件、研究奨励賞9件、ロボティクスシンポジウム研究奨励賞3件、ロボット活用社会貢献賞1件、功労賞1件の贈賞を行った。

##### 1. 学会誌論文賞

- エンコーダによる把持力推定技術とそれを用いたマスタスレーブ型手術支援システム  
(日本ロボット学会誌第31巻第9号, pp. 928-935)  
井上慎太郎, 岸 宏亮, 高橋誠也(オリンパス(株)), 佐久間一郎(東京大学), 小野 稔(東京大学医学部附属病院)
- 可変ピッチプロペラを用いた立位および転がり移動可能なマルチフィールド対応リング型飛行ロボット  
(日本ロボット学会誌第32巻第9号, pp. 807-815)  
川崎宏治, 趙 漢居, 岡田 慧, 稲葉雅幸(東京大学)
- 原子力災害対応ロボットの設計と開発  
(日本ロボット学会誌第32巻第9号, pp. 816-824)  
大西 献, 大西典子, 藤田 淳, 原 浩二, 橋本達矢(三菱重工業(株))

##### 2. Advanced Robotics Best Paper Award

- A novel method to develop an animal model of depression using a small mobile robot  
(Advanced Robotics Vol. 27 No. 1 pp. 61-69)  
Hiroyuki Ishii, Qing Shi, Shogo Fumino, Shinichiro Konno, Shinichi Kinoshita, Satoshi Okabayashi, Naritoshi Iida, Hiroshi Kimura, Yu Tahara, Shigenobu Shibata, Atsuo Takanishi (Waseda University)
- Tightly-coupled stereo vision-aided inertial navigation using feature-based motion sensors  
(Advanced Robotics Vol. 28 No. 11 pp. 717-729)  
Ehsan Asadi (Politecnico di Milano), Carlo L. Bottasso (Politecnico di Milano/Technische Universität München)
- Improved stability of haptic human-robot interfaces using measurement of human arm stiffness  
(Advanced Robotics Vol. 28 No. 13 pp. 869-882)

William Gallagher, Dalong Gao, Jun Ueda (Georgia Institute of Technology/General Motors Research & Development)

##### 3. 実用化技術賞

- 航空機用ジェットエンジンのベベルギヤ精密仕上げシステム  
上野 光, 柴崎暢宏, 林浩一郎, 三上知三, 金子 大((株)IHI)
- 地図作成・位置同定用コンポーネント ICHIDAS の開発と物流支援ロボット Lapi への適用  
白根一登, 榎 修一((株)日立産機システム), 松本高斉, 中拓久哉((株)日立製作所), 正木良三, 廣川雅也((株)日立産機システム), 安藤 武((株)日立ケーイーシステムズ)

##### 4. 研究奨励賞

- 赤井直紀(宇都宮大学)  
磁場ノイズを用いた自己位置推定法の有用性検証とそれに基づく自律移動法に関する考察  
第32回学術講演会/3J1-07
- 入江 清(千葉工業大学/東京工業大学)  
初めて訪れる場所における2次元市街地図を用いた自己位置推定  
第32回学術講演会/2J1-02
- 大谷拓也(早稲田大学)  
骨盤運動に着目した2足走行ロボットの開発  
第32回学術講演会/1B1-02
- 尾形邦裕(埼玉大学)  
福祉機器の客観的評価のための外装変形機構を有する人型グライダーロボット  
第32回学術講演会/1H3-02
- 金崎朝子(東京大学)  
RGB-D画像からの物体検出における対応点集合類似度の学習  
第32回学術講演会/3I2-03
- 亀崎允啓(早稲田大学)  
操作量ヒストグラムを用いたBIOG自動調整手法  
第32回学術講演会/3J2-06
- 橋本健二(早稲田大学)  
ヒト足部の機械的特性を模擬した着靴可能な足部機構の開発  
第32回学術講演会/1M3-05
- 早川 健(名古屋大学)  
振動誘起流れを用いたオンチップ細胞操作  
第32回学術講演会/1D3-02
- 渡辺敦志((株)ATR)  
人間協調型移動ロボットによるコンクリート打音検査記録システム  
第32回学術講演会/3Q1-04

##### 5. ロボティクスシンポジウム研究奨励賞

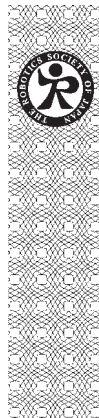
- 杉浦広峻(名古屋大学)  
ロボット統合型マイクロ流体チップを用いたモアレ干渉縞による高精度細胞計測  
第20回ロボティクスシンポジウム/1A1
- 上野貴弘(広島大学)  
高速トラッキングに基づくモーションブレンダーフリー顕微鏡  
第20回ロボティクスシンポジウム/1A2
- 原 祥堯(筑波大学/千葉工業大学)  
蓄積したスキャン形状のマッチングにより過去を考慮したGrid-based SLAM  
第20回ロボティクスシンポジウム/1B4

##### 6. ロボット活用社会貢献賞

- 日立GEニュークリア・エナジー(株), (株)日立製作所, 東京電力(株), 技術研究組合国際廃炉研究開発機構  
福島第一原子力発電所廃止措置の一環としての高放射線下可動形状変化型ロボットの開発及び一連の格納容器内溶融燃料調査作業におけるロボット技術活用に対する貢献

##### 7. 功労賞

- 中本秀一((株)東芝), 伊藤圭史(ニチユ三菱フォークリフト)





(株))

ロボット教育セミナーの設立

## VI. 国際(継続事業6) [担当: 国際理事] (定款第4条5号)

## 1. 国際委員会活動

国際委員会は、日本のロボット研究の国際的優位性を基盤にして日本ロボット学会の国際的な存在感と地位を確立することを目的とし、このための戦略を策定し実施するための委員会として活動している。今年度もこれまでの活動を継続し、

- ・国内の外国人研究者向けの研究発表の機会提供サービス、
  - ・国際会議を通しての学会の国際化に向けた取り組み、
  - ・Asian Robotics Society Union (ARSU) をベースとしたアジア圏でのロボット系学会間の協調体制の活性化
- の三つを柱に活動を行った。

## 2. 第33回日本ロボット学会学術講演会における国際セッションの実施

9月3日～5日に東京電機大学にて開催された第33回日本ロボット学会学術講演会において、例年どおりセッションの司会、発表、質疑応答のすべてが英語で行われる「国際セッション」を設けた。発表者には日本に滞在する留学生・研究者が多く含まれ、日本ロボット学会がこのような外国人に研究発表の機会を提供することは、外国人会員に対する有益なサービスであるとともに、日本ロボット学会を外国の人々に知ってもらうための貴重な機会である。また日本の若手研究者にとって、国際学会で発表する前の練習としても利用されており、こういった場を提供する意義は大きい。なお、会員でなくとも登壇することを認めている。

今年度の第33回日本ロボット学会学術講演会においては、以下の二つのセッションがオーガナイズされ、計16件の論文発表があった。件数は昨年度より減少しており、強い宣伝が望まれる。

- ・Robot Design and Control 8件
- ・Robot Vision and Software 8件

## 3. 国際交流活動

IROS2015会期中に開催された第10回アジアロボット学会連合サミットミーティング(10th Asian Robotics Society Union Summit Meeting)を企画・参加した。これはアジア+オセアニアのロボット系学会の会長が年に1度集まって情報交換する場である。来年度は韓国KROSがホストとなる。

日 時: 2015年10月1日 11:00～12:45 (IROS2015会期中)  
場 所: IROS2015会場内会議室

参 加 者:

[ARAA] (Australian Robotics and Automation Association, Australia and New Zealand)

Matthew Dunbabin, immediate past president of the ARAA

[CAA] (Chinese Association of Automation, China)

Lianqing Liu, Shenyang Institute of Automation, China

[KROS] (Korea Robotics Society, Korea)

Chul-Goo Kang, president of KROS

Hyouk Ryeol Choi, vice President of KROS

Jaeheung Park, board member of KROS

[RSI] (Robotics Society of India, India)

Madhav Krishna, International Institute of Information Technology (IIT) Kanpur

[RSJ] (Robotics Society of Japan, Japan)

Atsuo Takanishi, president of RSJ

Toshihiro Sawa, vice president of RSJ

Takashi Yoshimi, vice president of RSJ

Masafumi Okada, director of international relations of RSJ

Yuji Hosoda, director of general affairs and secretary-general of RSJ

[RSOS] (Robotics Society of Singapore, Singapore)

Ryad Chellali, Nanjing Tech University

[TRS] (Thai Robotics Society, Thailand)

Nattee Niparnan, Chulalongkorn University

おもな議題:

- (1) ARSU ホームページについて、各学会からのリクエストに基づきRSJが更新していくことを確認した。
- (2) 次回: IROS2016 期間中 (2016年10月9日～14日), KROSがホスト予定。

## 4. 国際会議への対応

RSJが共催となっているRO-MANとIROSに対し、以下のような活動を行った。

- (1) 24th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication (RO-MAN 2015)  
期間: 2015年8月31日～9月4日, 会場: 神戸国際会議場  
韓国KROSと共同でRSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Awardを贈賞した。
- (2) 2015 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems (IROS 2015)  
期間: 2015年9月28日～10月2日, 会場 Congress Center Hamburg (CCH) (ハンブルク, ドイツ)  
9月27日 12:00～17:00にIROS Advisory/Steering Committee Meetingが開催され、副会長1名、国際担当理事1名、理事・事務局長1名(計3名)が参加し、今後の開催体制や開催計画などを確認した。今後、IROSでの当学会の存在感を根付かせることを目標に、Advisory/Steering Committee Meetingへの継続的な参加を図ることとした。

## 5. 情報発信, その他

ARSU ホームページ (<http://www.asian-robotics.org/>) のコンテンツの更新。

## 6. 国際会議共催/協賛

共催となっているRO-MANおよびIROSを含め、本会に関連する国際会議を共催(3件)、協賛(14件)、後援(2件)した(2015年1月～12月31日審査分)。

## VII. 学術講演会(その他事業1) [担当: 学術講演会理事] (定款第4条1号)

## 1. 学術講演会

## (1) 第33回学術講演会

期 日: 2015年9月3日(木)～5日(土)

会 場: 東京電機大学 東京千住キャンパス

組 織: 実行委員長: 石川 潤 (東京電機大学)

プログラム委員長: 前田雄介 (横浜国立大学)

発表件数: 88セッション 600件

一般セッション 32テーマ 39セッション 285件

オーガナイズドセッション 32テーマ 47セッション 299件

国際セッション 2テーマ 2セッション 16件

オープンフォーラム: 15テーマ (うち2テーマはオーガナイズドセッションを兼ねる)

特別講演 講 師: 野波健蔵氏 (千葉大学 特別教授)

タイトル: 「ドローンによる空の産業革命と近未来社会」

参加者数: 1,160名

正会員(事前): 478名

学生会員(事前): 347名

非会員(事前): 25名

学生非会員(事前): 35名

正会員(当日): 134名

学生会員(当日): 22名

優待券利用の賛助会員(当日): 24名

優待券非利用の賛助会員(当日): 9名

非会員(当日): 48名

学生非会員(当日): 18名

無料招待者: 20名

懇親会: 441名

一般・有料(事前): 229名

学生・有料(事前): 138名

一般・有料(当日): 32名

学生・有料(当日): 13名

協賛企業・有料(当日): 9名  
 無料招待者(受賞者等): 20名

Ⅷ. 講習会(その他事業2)[担当:事業理事](定款第4条1号)

1. ロボット工学セミナー

- ・学生参加費を下記のとおり改定した。  
 学生:4,500円→学生会員:3,000円, 学生非会員:4,500円
- ・複数回セミナーに参加した参加者に対する特別優待券発行サービスを開始した。
- 条件:ロボット工学セミナーを2年間で5回受講した方を対象
- 優待内容:学生(RSJ会員非会員問わず)の場合1回, 無料でセミナーに参加可能。  
 学生以外の場合,「学生会員相当価格(通常は3,000円)」でセミナーに参加可能

- (1) 第90回セミナー「ロボットビジョンのための画像処理技術」  
 期日:2015年5月14日(木) 東京大学  
 講師:松下康之(大阪大学), 日野英逸(筑波大学), 日浦慎作(広島市立大学), 岡谷貴之(東北大学)  
 オーガナイザー:佐川立昌(産業技術総合研究所)  
 参加者:137名(会員・協賛:38名, 会員・協賛(学生):15名, 会員外:19名, 会員外(学生):23名, 賛助招待:16名, 賛助優待:7名, 遠隔:19名)
- (2) 第91回セミナー「ロボットの動かし方～自律移動可能な移動ロボットの開発実習～」  
 期日:2015年6月20日(土), 21日(日) 芝浦工業大学  
 講師:大原賢一(名城大学), 佐々木毅(芝浦工業大学), 安藤慶昭(産業技術総合研究所), 菅 佑樹(Sugar Sweet Robotics)  
 オーガナイザー:大原賢一(名城大学), 佐々木毅(芝浦工業大学)  
 参加者:20組37名(会員・協賛:11名, 会員・協賛(学生):8名, 会員外:6名, 会員外(学生):10名, 賛助招待:2名, 賛助優待:0名)
- (3) 第92回セミナー「UAV飛行の原理と応用最前線」  
 期日:2015年6月24日(水) 東京大学  
 講師:野波健蔵(千葉大学/ (株)自律制御システム研究所), 伊豆智幸((株)エンルート), 細田慶信(富士重工業(株)), 中山浩典(ヤマハ発動機(株)), 中川雅史(芝浦工業大学)  
 オーガナイザー:田崎 豪((株)東芝)  
 参加者:95名(会員・協賛:27名, 会員・協賛(学生):8名, 会員外:20名, 会員外(学生):13名, 賛助招待:5名, 賛助優待:3名, 遠隔:19名)
- (4) 第93回セミナー「ロボットの知能とデータ構造 ー身体と環境の継続的な相互作用」  
 期日:2015年7月31日(金) 中央大学  
 講師:小林祐一(静岡大学), 三枝 亮(豊橋技術科学大学), 高野 渉(東京大学), 尾形哲也(早稲田大学)  
 オーガナイザー:増山岳人(中央大学)  
 参加者:55名(会員・協賛:16名, 会員・協賛(学生):4名, 会員外:9名, 会員外(学生):1名, 賛助招待:9名, 賛助優待:3名, 遠隔:13名)
- (5) 第94回セミナー「ロボット用オープンソースソフトウェアとその実用例」  
 期日:2015年9月11日(金) 中央大学  
 講師:岡田 慧(東京大学), 原 祥亮(千葉工業大学), 長嶋功一(カワダロボティクス(株)), 齋藤 功((一社)東京オープンソースロボティクス協会), 山内 実(トヨタ自動車(株))  
 オーガナイザー:森谷俊洋(オムロン(株))  
 参加者:70名(会員・協賛:22名, 会員・協賛(学生):6名, 会員外:14名, 会員外(学生):4名, 賛助招待:6名, 賛助優待:3名, 遠隔:15名)

- (6) 第95回セミナー「数値モデルとロボット ～自然に潜む法則を役立てる～」  
 期日:2015年10月15日(木) 中央大学  
 講師:倉林大輔(東京工業大学), 千田陽介・伊東利雄((株)富士通研究所), 新井仁之(東京大学), 石黒章夫(東北大学), 合原一幸(東京大学)  
 オーガナイザー:山岡久俊((株)富士通研究所)  
 参加者:40名(会員・協賛:16名, 会員・協賛(学生):3名, 会員外:3名, 会員外(学生):5名, 賛助招待:3名, 賛助優待:1名, 遠隔:9名)

- (7) 第96回セミナー「神経生理から理解するリハビリテーション・ロボティクス」  
 期日:2015年11月17日(火) 名古屋大学  
 講師:関 和彦(国立神経精神センター), 西村幸男(国立生理学研究センター), 鳥 圭介(横浜国立大学), 森田良文(名古屋工業大学), 香川高弘(名古屋大学)  
 オーガナイザー:岡本正吾(名古屋大学)  
 参加者:30名(会員・協賛:9名, 会員・協賛(学生):1名, 会員外:5名, 会員外(学生):3名, 賛助招待:2名, 賛助優待:1名, 遠隔:9名)

※ のべ参加者:464名  
 会員・協賛:139名, 会員・協賛(学生):45名, 会員外:76名, 会員外(学生):59名, 賛助招待:43名, 賛助優待:18名, 遠隔:84名

2. 共催事業

本会に関連する国内行事(講演会, シンポジウム, 講習会, 展示会, コンテスト等)の共催・協賛・後援について審査を行った。共催10件, 協賛97件, 後援11件(2015年1月1日～12月31日審査分)。  
 おもな国内共催事業:

- (1) 第20回ロボティクスシンポジウム  
 期日:2015年3月15日(日)・16日(月)
- (2) ロボカップジャパンオープン2015  
 期日:2015年5月2日(土)～4日(月)
- (3) フォーラム「カー・ロボティクス ー自動運転の社会導入に向けての課題と展開ー」  
 期日:2015年5月20日(水)
- (4) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2015  
 期日:2015年6月13日(土)・14日(日)
- (5) 第14回レスキューロボットコンテスト  
 期日:2015年8月8日(土)・9日(日)
- (6) 第15回建設ロボットシンポジウム  
 期日:2015年9月7日(月)～9日(水)
- (7) RSNP コンテスト  
 期日:2015年9月3日(木)～5日(土)
- (8) つくばチャレンジ2015  
 期日:2015年11月8日(日)(本走行)

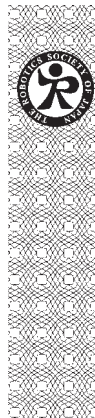
Ⅸ. 法人処理 [担当:庶務理事]

1. 会員状況

	平成27年12月31日 現在	平成26年12月31日 現在	増 減
名誉会員	10名	10名	増減なし
正会員	2,950名	2,908名	42名増
学生会員	1,044名	1,108名	64名減
終身会員	89名	70名	19名増
賛助会員	70団体(96口)	68団体(94口)	2団体(2口)増

2. 総会

- (1) 第5回定時総会  
 会期:平成27年3月20日(金)  
 会場:本郷瀬川ビル  
 出席代議員数:54名(うち委任状提出:34名)(代議員総数:



56名、総会成立の定数29名以上、議題の可決に必要な出席代議員数38名以上)

議題：平成26年度の事業報告・決算報告、平成27年度の事業計画・予算計画、平成27年度役員の選任上記について審議し、議決した。

3. 委員会

下記の委員会を開催した。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月)
会誌編集委員会	田中一男	王 碩玉
欧文誌委員会	尾形哲也	倉林大輔
事業計画委員会	尾崎功一	小林英津子
国際委員会	前田雄介	平井慎一
研究協議会	大隅 久	吉見 卓
第33回学術講演会実行委員会	石川 潤	妻木勇一
表彰委員会	高西淳夫	澤 俊裕
第29回学会誌論文賞選考小委員会	大隅 久	吉見 卓
第3回 Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	大隅 久	吉見 卓
第20回実用化技術賞選考小委員会	高西淳夫	澤 俊裕
第8回功労賞選考小委員会	高西淳夫	澤 俊裕
第7回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	大隅 久	吉見 卓
第30回研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	澤 俊裕
第5回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	高西淳夫	澤 俊裕
外部表彰選考小委員会	大隅 久	吉見 卓
体制整備委員会	小平紀生	高西淳夫
アドバイザーボード	小平紀生	高西淳夫
次世代構想委員会	未定	未定
会員5000名拡大計画委員会	高西淳夫	澤 俊裕
コンプライアンス委員会	小平紀生	高西淳夫
情報システム管理委員会	高西淳夫	澤 俊裕
学術講演会管理推進委員会	大隅 久	吉見 卓
学会発行誌構想検討委員会	高西淳夫	澤 俊裕
情報発信企画委員会	大隅 久	吉見 卓
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	高西淳夫	澤 俊裕
IRH2015 実行委員会	—	吉見 卓

4. 役員の選出

平成27年度の理事・監事を選出した。

5. 運営報告会、理事会

- (1) 平成27年9月3日(木)に運営報告会を開催し、会務報告を行った。
- (2) 平成27年度中に10回理事会を開催し、会務の審理と処理を行った。

6. フェロー、名誉会員の選任

8名のフェローを選任した。

7. 学会の基盤強化

各所轄委員会にて、会員の拡大、論文発表の活性化をめざし、広報活動、産業貢献・異業種連携活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上をはかった。また、若年層への啓発活動を継続実施した。

8. 学会サービスの向上

情報発信企画委員会、ロボット研究開発アーカイブ実行委員会にて、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を進め、会員サービスの質の向上を図るとともに、学会の社会的価値の向上を図った。

9. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を実施した。

10. 将来検討

本年度は、特に活動なし。来年度は、次世代構想委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む予定。

11. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備した。

12. 学会インフラの整備

Webサイト：RSJフォーラムの検討を推進した。

X. 事業報告に係る附属明細書 [担当：庶務理事]

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。

## 【第2号議案】

平成27年度決算報告(案)

貸借対照表内訳表  
平成27年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表  
平成27年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	208,215,176	201,762,590	6,452,586
現金	4,971,901	5,027,155	△ 55,254
普通預金	53,297,052	56,138,532	△ 2,841,480
振替口座	15,519,470	6,196,968	9,322,502
通常貯金	997,394	997,153	241
定期預金	133,429,359	133,402,782	26,577
未収会費	2,444,000	2,122,000	322,000
未収金	3,440,864	3,293,684	147,180
前払金	517,729	551,749	△ 34,020
立替金	32,076	68,808	△ 36,732
仮払金	11,903,345	4,832,667	7,070,678
流動資産合計	226,553,190	212,631,498	13,921,692
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産	9,222,251	8,517,697	704,554
定期預金	21,000,000	21,000,000	0
特定財産合計	30,222,251	29,517,697	704,554
(2) その他固定資産			
電話加入権	153,100	153,100	0
敷金	63,000	63,000	0
保証金	2,500,000	2,500,000	0
その他固定資産合計	2,716,100	2,716,100	0
固定資産合計	32,938,351	32,233,797	704,554
資産合計	259,491,541	244,865,295	14,626,246
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,036,940	1,896,829	△ 859,889
前受会費	23,456,000	22,984,000	472,000
前受入金	10,000	0	10,000
預り金	725,613	432,311	293,302
仮受金	4,679,589	4,995,667	△ 316,078
未払法人税等	70,000	70,000	0
流動負債合計	29,978,142	30,378,807	△ 400,665
2. 固定負債			
退職給付引当金	9,222,251	8,517,697	704,554
固定負債合計	9,222,251	8,517,697	704,554
負債合計	39,200,393	38,896,504	303,889
III 正味財産の部			
一般正味財産	220,291,148	205,968,791	14,322,357
(うち特定資産への充当額)	( 21,000,000)	( 21,000,000)	( 0)
正味財産合計	220,291,148	205,968,791	14,322,357
負債及び正味財産合計	259,491,541	244,865,295	14,626,246

科 目	実施事業等会計	その他会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	2,168,589	2,500,000	203,546,587		208,215,176
未収会費			2,444,000		2,444,000
未収金			3,440,864		3,440,864
前払金			517,729		517,729
立替金			32,076		32,076
仮払金			11,903,345	4,668,589	7,234,756
流動資産合計	2,168,589	2,500,000	221,884,601	4,668,589	221,884,601
2. 固定資産					
(1) 特定資産					
退職給付引当資産	6,678,995	231,205	2,312,051		9,222,251
定期預金			21,000,000		21,000,000
特定資産合計	6,678,995	231,205	23,312,051	0	30,222,251
(2) その他固定資産					
電話加入権	76,264	25,205	51,631		153,100
敷金			63,000		63,000
保証金			2,500,000		2,500,000
その他固定資産合計	76,264	25,205	2,614,631	0	2,716,100
固定資産合計	6,755,259	256,410	25,926,682	0	32,938,351
資産合計	8,923,848	2,756,410	247,811,283	4,668,589	254,822,952
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金			1,036,940		1,036,940
前受会費			23,456,000		23,456,000
前受入金			10,000		10,000
預り金			725,613		725,613
仮受金	2,168,589	2,500,000	11,000	4,668,589	11,000
未払法人税等			70,000		70,000
流動負債合計	2,168,589	2,500,000	25,309,553	4,668,589	25,309,553
2. 固定負債					
退職給付引当金	6,678,995	231,205	2,312,051		9,222,251
固定負債合計	6,678,995	231,205	2,312,051	0	9,222,251
負債合計	8,847,584	2,731,205	27,621,604	4,668,589	34,531,804
会計区分間振替勘定					
会計区分間振替勘定	76,264	25,205	△ 101,469		0
会計区分間振替勘定合計	76,264	25,205	△ 101,469	0	0
III 正味財産の部					
一般正味財産	0	0	220,291,148	0	220,291,148
正味財産合計	0	0	220,291,148	0	220,291,148
負債及び正味財産合計	8,923,848	2,756,410	247,811,283	4,668,589	254,822,952



## 正味財産増減計算書

平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 特定資産運用益	5,505	5,392	113
特定資産受取利息	5,505	5,392	113
② 受取入金	448,000	473,000	△ 25,000
正会員受取入金	119,000	97,000	22,000
学生会員受取入金	329,000	376,000	△ 47,000
③ 受取会費	42,238,000	41,576,000	662,000
正会員受取会費	29,810,000	29,420,000	390,000
学生会員受取会費	4,348,000	4,796,000	△ 448,000
賛助会員受取会費	8,080,000	7,360,000	720,000
④ 事業収益	47,248,633	44,859,212	2,389,421
参加費事業収益	17,024,000	16,299,000	725,000
懇親会参加費事業収益	2,301,000	2,760,000	△ 459,000
展示料事業収益	3,783,000	3,130,000	653,000
講演概要集広告料事業収益	189,000	360,000	△ 171,000
セミナー参加費事業収益	4,376,500	3,763,500	613,000
会誌掲載料事業収益	11,521,980	11,114,865	407,115
会誌広告料事業収益	4,345,056	3,640,384	704,672
会誌頒布事業収益	1,660,575	1,705,263	△ 44,688
編集料事業収益	2,047,522	2,086,200	△ 38,678
⑤ 受取補助金等	0	300,000	△ 300,000
受取地方公共団体助成金	0	300,000	△ 300,000
⑥ 受取寄付金	0	24,000	△ 24,000
受取寄付金	0	24,000	△ 24,000
⑦ 雑収益	18,088,538	13,231,815	4,856,723
受取利息	35,650	33,330	2,320
雑収益	18,052,888	13,198,485	4,854,403
経常収益計	108,028,676	100,469,419	7,559,257
(2) 経常費用			
① 事業費	64,598,881	58,573,834	6,025,047
給料手当	9,278,429	8,825,842	452,587
臨時雇賃金	1,352,441	1,894,402	△ 541,961
退職給付費用	480,355	554,238	△ 73,883
福利厚生費	1,498,235	1,162,780	335,455
旅費交通費	1,712,613	1,658,551	54,062
通信運搬費	4,074,802	3,948,216	126,586
消耗什器備品費	117,828	172,460	△ 54,632
消耗品費	2,398,973	1,972,810	426,163
印刷製本費	17,970,725	18,691,506	△ 720,781
賃借料	2,909,870	383,883	2,525,987
諸謝金	1,405,885	1,354,105	51,780
租税公課	1,010,700	689,700	321,000
支払負担金	8,646,713	6,503,855	2,142,858
委託費	8,893,648	8,903,513	△ 9,865
雑費	2,847,664	1,857,973	989,691
② 管理費	29,037,438	28,364,951	672,487
給料手当	8,942,724	7,697,657	1,245,067
臨時雇賃金	2,464,647	3,314,237	△ 849,590
退職給付費用	224,199	186,379	37,820
福利厚生費	1,174,934	432,326	742,608
会議費	176,796	289,676	△ 112,880
旅費交通費	492,032	642,808	△ 150,776
通信運搬費	874,717	1,319,924	△ 445,207
消耗什器備品費	438,350	0	438,350
消耗品費	478,012	443,061	34,951
印刷製本費	909,454	885,362	24,092

光熱水料費	425,182	417,024	8,158
賃借料	6,998,862	7,115,160	△ 116,298
保険料	6,000	6,000	0
支払手数料	442,282	409,379	32,903
諸会費	314,377	314,760	△ 383
諸謝金	1,098,900	1,090,200	8,700
租税公課	40,700	37,100	3,600
委託費	2,094,014	2,408,416	△ 314,402
雑費	1,441,256	1,355,482	85,774
経常費用計	93,636,319	86,938,785	6,697,534
評価損益等調整前当期経常増減額	14,392,357	13,530,634	861,723
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	14,392,357	13,530,634	861,723
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	14,392,357	13,530,634	861,723
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	14,322,357	13,460,634	861,723
一般正味財産期首残高	205,968,791	192,508,157	13,460,634
一般正味財産期末残高	220,291,148	205,968,791	14,322,357
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	220,291,148	205,968,791	14,322,357



正味財産増減計算書内訳表

平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日まで

No. 1 (単位：円)

科 目	実 施 事 業 等 会 計							小計 (A)
	継1 シンポジウム	継2 学会誌	継3 欧文誌	継4 調査・研究	継5 表彰	継6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受取入金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金								
学生会員受取入金								
受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事業収益	0	17,527,611	2,047,522	0	0	0	0	19,575,133
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講習等集益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		11,521,980						11,521,980
会誌広告料事業収益		4,345,056						4,345,056
会誌頒布事業収益		1,660,575						1,660,575
編集料事業収益			2,047,522					2,047,522
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金								
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0
受取利息								
雑収益								
経常収益計	0	17,527,611	2,047,522	0	0	0	0	19,575,133
(2) 経常費用								
事業費	2,714,374	26,471,295	7,136,556	1,080,598	6,964,536	1,022,553	0	45,389,912
給料手当		4,908,908			3,700,014			8,608,922
臨時雇賃金	199,288	35,274		29,379				263,941
退職給付費用		227,345			230,590			457,935
福利厚生費		813,671			593,324			1,406,995
旅費交通費	106,038	50,644	23,576	277,210	158,106	521,762		1,137,336
通信運搬費	54,061	3,723,488		13,465	107,891	20,736		3,919,641
消耗什器備品費								
消耗品費	236,209	9,545	4,685	27,052	27,195			304,686
印刷製本費	56,421	14,396,606		18,509				14,471,536
賃借料	612,887			108,620				721,507
諸謝金	270,444			366,659				637,103
租税公課		511,600	4,000					515,600
支払負担金	279,696		3,641,971	143,122				4,064,789
委託費	799,200	1,789,214	3,462,324	41,040				6,091,778
雑費	100,130	5,000		55,542	2,147,416	480,055		2,788,143
管理費	0	0	0	0	0	0	0	0
給料手当								
臨時雇賃金								
退職給付費用								
福利厚生費								
会議費								

旅費交通費								
通信運搬費								
消耗什器備品費								
消耗品費								
印刷製本費								
光熱水料費								
賃借料								
保険料								
支払手数料								
諸会費								
諸謝金								
租税公課								
委託費								
雑費								
経常費用計	2,714,374	26,471,295	7,136,556	1,080,598	6,964,536	1,022,553	0	45,389,912
評価損益等調整前	-2,714,374	-8,943,684	-5,089,034	-1,080,598	-6,964,536	-1,022,553	0	-25,814,779
当期経常増減額	-2,714,374	-8,943,684	-5,089,034	-1,080,598	-6,964,536	-1,022,553	0	-25,814,779
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	2,714,374	8,943,684	5,089,034	1,080,598	6,964,536	1,022,553	0	25,814,779
税引前当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税・住民税及び事業税								
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0



## 正味財産増減計算書内訳表

平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日まで

No. 2 (単位：円)

科 目	その他会計				法人 会計 (C)	内部取 引消去	合計 (A) + (B) + (C)
	他1 学術 講演会	他2 講習会	共通	小計 (B)			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	5,505	0	5,505
特定資産受取利息					5,505		5,505
受取入金金	0	0	0	0	448,000	0	448,000
正会員受取入金金					119,000		119,000
学生会員受取入金金					329,000		329,000
受取会費	0	0	0	0	42,238,000	0	42,238,000
正会員受取会費					29,810,000		29,810,000
学生会員受取会費					4,348,000		4,348,000
賛助会員受取会費					8,080,000		8,080,000
事業収益	23,297,000	4,376,500	0	27,673,500	0	0	47,248,633
申込金事業収益							
参加費事業収益	17,024,000			17,024,000			17,024,000
懇親会参加費事業収益	2,301,000			2,301,000			2,301,000
展示料事業収益	3,783,000			3,783,000			3,783,000
講演懇親会集広 告料事業収益	189,000			189,000			189,000
セミナー参加費事業収益		4,376,500		4,376,500			4,376,500
会誌掲載料事業収益							11,521,980
会誌広告料事業収益							4,345,056
会誌頒布事業収益							1,660,575
編集料事業収益							2,047,522
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金							
受取地方公共団体補助金							
受取地方公共団体助成金							
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金							
雑収益	0	0	0	0	18,088,538	0	18,088,538
受取利息					35,650		35,650
雑収益					18,052,888		18,052,888
経常収益計	23,297,000	4,376,500	0	27,673,500	60,780,043	0	108,028,676
(2) 経常費用							
事業費	15,461,591	3,747,378	0	19,208,969	0	0	64,598,881
給料手当	669,507			669,507			9,278,429
臨時雇賃金	1,003,500	85,000		1,088,500			1,352,441
退職給付費用	22,420			22,420			480,355
福利厚生費	91,240			91,240			1,498,235
旅費交通費	8,839	566,438		575,277			1,712,613
通信運搬費	138,554	16,607		155,161			4,074,802
消耗什器備品費		117,828		117,828			117,828
消耗品費	364,563	1,729,724		2,094,287			2,398,973
印刷製本費	3,402,337	96,852		3,499,189			17,970,725
賃借料	1,881,351	307,012		2,188,363			2,909,870
諸謝金	133,645	635,137		768,782			1,405,885
租税公課	365,100	130,000		495,100			1,010,700
支払負担金	4,572,424	9,500		4,581,924			8,646,713
委託費	2,801,870			2,801,870			8,893,648
雑費	6,241	53,280		59,521			2,847,664
管理費	0	0	0	0	29,037,438	0	29,037,438
給料手当					8,942,724		8,942,724
臨時雇賃金					2,464,647		2,464,647
退職給付費用					224,199		224,199
福利厚生費					1,174,934		1,174,934

会議費							176,796	176,796
旅費交通費							492,032	492,032
通信運搬費							874,717	874,717
消耗什器備品費							438,350	438,350
消耗品費							478,012	478,012
印刷製本費							909,454	909,454
光熱水料費							425,182	425,182
賃借料							6,998,862	6,998,862
保険料							6,000	6,000
支払手数料							442,282	442,282
諸会費							314,377	314,377
諸謝金							1,098,900	1,098,900
租税公課							40,700	40,700
委託費							2,094,014	2,094,014
雑費							1,441,256	1,441,256
経常費用計	15,461,591	3,747,378	0	19,208,969	29,037,438	0	93,636,319	
評価損益等調整前 当期経常増減額	7,835,409	629,122	0	8,464,531	31,742,605	0	14,392,357	
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	7,835,409	629,122	0	8,464,531	31,742,605	0	14,392,357	
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-7,835,409	-629,122	0	-8,464,531	-17,350,248	0	0	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	14,392,357	14,392,357
法人税、住民 税及び事業税							70,000	70,000
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	14,322,357	14,322,357
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	205,968,791	205,968,791
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	220,291,148	220,291,148
II 指定正味財産増減の部								
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	220,291,148	220,291,148

## 財務諸表に対する注記

## 1. 重要な会計方針

## (1) 引当金の計上基準

退職給付引当金は、期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

## (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込み方式によっている。

## 2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特 定 資 産				
退職給付引当資産	8,517,697	704,554	0	9,222,251
定 期 預 金	21,000,000	0	0	21,000,000
合 計	29,517,697	704,554	0	30,222,251

## 3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特 定 資 産				
退職給付引当資産	9,222,251	—	( 0)	9,222,251
定 期 預 金	21,000,000	( 0)	( 21,000,000)	—
合 計	30,222,251	( 0)	( 21,000,000)	( 9,222,251)

## 附 属 明 細 書

## 1. 特定資産の明細

特定資産の明細については、「財務諸表に対する注記」の「2. 特定資産の増減額及びその残高」に記載のとおりである。

## 2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期 増加額	当期減少額		期末残高
			使用目的	その他	
退職給付引当金	8,517,697	704,554	0	0	9,222,251



## お 知 ら せ

財 産 目 録  
平成 27 年 12 月 31 日現在

(単位：円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金	手許有高	4,971,901	
普通預金	三菱東京 UFJ 銀行本店	16,079,674	
〃	みずほ銀行本郷支店	19,899,659	
〃	みずほ銀行本郷支店	245,803	
〃	りそな銀行本郷支店	5,822,431	
〃	三井住友銀行小石川支店	11,249,485	
定期預金	三井住友銀行小石川支店	55,262,063	
〃	三菱 UFJ 信託銀行本店	60,105,570	
〃	みずほ銀行本郷支店	18,061,726	
振替口座	ゆうちょ銀行	15,519,470	
通常貯金	ゆうちょ銀行	997,394	
未収会費	平成 27 年度会費 351 名, 1 口	2,444,000	
未収金	学会誌投稿料・広告料他	3,440,864	
前払金	平成 28 年 1 月分事務所家賃他	517,729	
立替金	日本ロボティクスシンポジア WEB サーバ費用	32,076	
仮払金	IROS 2015・2016 Advanced Loan 他	7,234,756	
流動資産合計			221,884,601
2 固定資産			
(1) 特定資産			
退職給付引当資産(普通預金)	三菱東京 UFJ 銀行春日町支店	9,222,251	
定期預金	三菱東京 UFJ 銀行本店	21,000,000	
特定資産合計		30,222,251	
(2) その他固定資産			
電話加入権	2 本	153,100	
敷金	賃貸借契約敷金	63,000	
保証金	賃貸借契約保証金	2,500,000	
その他固定資産合計		2,716,100	
固定資産合計			32,938,351
資産合計			254,822,952
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	封入・郵送費(日本ロボット学会誌 33 - 10)	256,058	
〃	コピー機使用料	247,483	
〃	人材派遣費 12 月分	224,897	
〃	交通費(事業計画委員会他)	80,218	
〃	税理士顧問料他	228,284	
前受会費	会費前受分	23,456,000	
前受入会金	入会金前受分	10,000	
預り金	源泉所得税	91,920	
〃	住民税	82,900	
〃	社会保険料	550,793	
仮受金	会費誤入金分他	11,000	
未払法人税等	平成 27 年分法人住民税	70,000	
流動負債合計			25,309,553
2 固定負債			
退職給付引当金	退職給付分	9,222,251	
固定負債合計			9,222,251
負債合計			34,531,804
正味財産			220,291,148



## 監 査 報 告

私たち監事は、平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日までの第三期事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表等（貸借対照表（内訳表を含む）、正味財産増減計算書（内訳表を含む）、財務諸表に対する注記）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

## (1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。

## (2) 財務諸表等及びその附属明細書の監査結果

財務諸表等及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 28 年 2 月 16 日

一般社団法人日本ロボット学会

監 事 平井 成興 ㊟  
監 事 小平 紀生 ㊟

## 【基本方針】

日本におけるロボットに関連した科学・工学としての学術面での探究を行い、さらにその成果を日本国内のみならず世界レベルで社会実装に結びつける活動を通じて、持続可能（Sustainable）で強靱（Resilient）な社会・世界の構築と発展に寄与することを目標とする。

## 【背景】

政府によるロボット革命イニシアティブ協議会の発足などのロボット技術強化と社会普及に関連する政策の発動あるいはロボットの生産台数増加など、産業用ロボットとサービスロボットのいずれに関しても良好な状況となっている。いっぽうで東日本大震災に端を発した防災ロボットや瓦礫撤去・廃炉作業の支援ロボットへの取り組みの強化、あるいはIoTやIndustry4.0といった知能化技術と相まった新たなビジネスや生産の高度化へのチャレンジなど、単なる期待ではなく国際的な競争を勝ち抜くための実際の成果が要請される状況が進んでいる。短・中期的にはこれらの要望に直接的に応えつつ、長期的には産学の発展に持続的に寄与しうる活動を模索・実行する必要がある。

また、一般社団法人としての学会運営においては、会員サービスの向上による会員拡大を通じた収支改善の活動、業務効率化のための業務インフラの整備など、学会の基礎体力向上に向けた努力は恒常的に実施する必要がある。

## 【2016 年度重点項目と目的】

- ・産学・他学協会連携の強化：ロボットの社会実装の促進と産業競争力の維持強化
- ・国際的プレゼンスの向上：技術と産業のグローバル化時代におけるリーダーシップの発揮
- ・工学教育を通じた社会貢献：日本国民全体の産業技術力の向上

## 公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告

私たち監事は、平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日までの第三期事業年度の公益目的支出計画実施報告書について監査いたしました。その方法及び結果につき以下のとおり報告いたします。

## 1. 監査の方法及びその内容

会計帳簿又はこれに関する資料、公益目的支出計画に関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

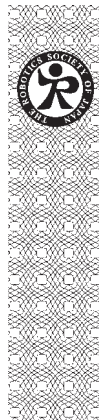
## 2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令等に従い、適切に作成されているものと認めます。

平成 28 年 2 月 16 日

一般社団法人日本ロボット学会

監 事 平井 成興 ㊟  
監 事 小平 紀生 ㊟



【報告資料 1】

平成 28 年度 事業計画

(自 平成 28 年 1 月 1 日 至 平成 28 年 12 月 31 日)

I. シンポジウム (継続事業 1) [担当: 事業理事/学術講演会理事]

1. ロボット教育セミナー

第 4 回ロボット教育セミナー「子供向けからくり教室 (仮)」

期日: 2016 年 7 月 (予定)

オーガナイザ: 現在調整中

2. オープンフォーラム

第 34 回学術講演会 (山形大学, 2016 年 9 月 7 日~9 日) にて, オープンフォーラム (無料・一般公開) を企画予定.

II. 学会誌 (継続事業 2) [担当: 学会誌理事] (定款第 4 条 2 号)

第 34 巻 1 号より 10 号を, 1 月, 3 月, 4 月, 5 月, 6 月, 7 月, 9 月, 10 月, 11 月, 12 月に刊行し, 会員に配布する. 各号の特集テーマは以下のものを予定している.

- 第 34 巻 1 号 飛行ロボット研究の最前線 I (仮)
- 第 34 巻 2 号 飛行ロボット研究の最前線 II (仮)
- 第 34 巻 3 号 キネマティクス研究 (仮)
- 第 34 巻 4 号 ロボット介護機器の実用化 (仮)
- 第 34 巻 5 号 ロボットシステム I (仮)
- 第 34 巻 6 号 ロボットシステム II (仮)
- 第 34 巻 7 号 第 33 回日本ロボット学会学術講演会論文特集号 (仮)
- 第 34 巻 8 号 次世代インフラ用ロボット特集号 (仮)
- 第 34 巻 9 号 ロボット技術の実用化 (仮)
- 第 34 巻 10 号 ロボットビジョンとマニピュレーション (仮)

前年度に引き続き, 魅力的な特集号の企画などについて取り組む. また, 学術講演会論文特集号に加え, ロボット基礎レクチャーシリーズを企画する. 一般記事に関しては, 会議報告, コラム記事, 工場訪問, 研究者・開発者インタビュー記事などの掲載を継続して行く. 論文投稿の減少改善策としては, 2014 年 4 月から導入された新たな査読システムの改革が投稿数の増加, 採択率の増加に貢献するかどうか, 長期的視野で検討を行う.

広告に関しては, 大変厳しい状況ではあるが, 収入目標を 400 万円と設定し, 特集に関連した企業広告の獲得など目標達成に向けた具体的な取り組みを行う.

中期的ビジョンとしては, 和文 (論文) 誌の在り方について, 学会の発展・会員サービスの質の向上を優先して改善策を検討して行く. 例えば, ロボット関連の商業雑誌 (いまのところロボコンマガジン, 日経ロボティクスも検討) との連携解説, インターネットメディア (特に動画 YouTube) とリンクした解説, 論文ダウンロード数の評価とフィードバック, 教育論文, 企業論文, 解説論文, アイデア論文など, 新しい領域を開拓, などを検討し, ロボット研究のすそ野を広げて行く. 平易で可読性の高い論文や知的刺激に満ちた論文についても積極的に開拓する. 一方, 和文誌の在り方については, 第 33 回日本ロボット学会学術講演会にて実施したオープンフォーラム「読んでおもしろい学会誌・論文誌 ~学会誌読者からの提案と通る論文の書き方~」において, 論文執筆時の注意事項と査読者の視点, 各分野の目指す方向性, 論文投稿数増加のための指針などが示されたので, 周知実行についての具体的な検討を実施する. 今後, 学会発行誌構想検討委員会においても, 議論を重ねていきたい. 長期的ビジョンとしては, 学会誌を和文 (論文) 誌と切り離しマガジン化, 和文 (論文) 誌はオープンジャーナル化など思い切った改革の可能性についても合わせて議論を開始する.

III. 欧文誌 (継続事業 3) [担当: 欧文誌理事] (定款第 4 条 2 号)

1. 欧文誌 (Advanced Robotics) の発行計画

下記のとおり, 2016 年度においては Vol. 30 を年 24 号発行することを計画している.

Vol. No.	Month	Title
30/1, 2	Jan	Regular Issue
30/3, 4	Feb	Regular Issue

30/5, 6	Mar	Regular Issue
30/7, 8	Apr	Regular Issue
30/9, 10	May	Machine Learning and Data Engineering in Robotics, Regular Issue
30/11, 12	Jun	Regular Issue
30/13, 14	Jul	Regular Issue
30/15, 16	Aug	Recent Advancements on Industrial Robot Technology, Regular Issue
30/17, 18	Sep	Regular Issue
30/19, 20	Oct	Regular Issue
30/21, 22	Nov	Regular Issue
30/23, 24	Dec	Regular Issue

2. 編集体制

2016 年度は, 新井史人編集長の下, シニアエディター 4 名および 15 名の欧文誌委員会メンバーを中心に, 査読小委員会, 国際編集委員, アドバイザリー委員会のメンバーの協力を得ながら, 欧文誌 Advanced Robotics の国際的認知度向上, さらに日本ロボット学会と日本のロボット分野全体の国際的地位向上に貢献していく.

3. 欧文誌の内容向上と購読数増に向けて

2014 年度から年間 24 号としたことで, 一般論文の査読・出版サイクルに大幅な改善が図られているが, 今後も採否決定までの期間 90 日を目標に出版を行っていく. 一般論文の投稿数を見ながら積極的かつ戦略的な特集号企画を行い, 国際的な認知度のさらなる向上, また引用の多い論文数件を Open Access 可能とする等を実施し掲載論文の質の向上を図り, 昨年度上昇した Citation Index の評価 (インパクトファクタ) の更なる向上を目指す. さらに, 国際貢献の意味も含め, 国内外からの投稿数をさらに増大させていくための施策として, 投稿料無料を堅持する.

4. 国際化に向けての活動

主要な国際会議 IROS2016 に合わせて国際編集委員会を開催し, 海外委員による特集号企画などを通して, 国際的認知度を高める努力を行っていく. また国際貢献のために, ロボット学会の外国人会員の増加, 日本の優れた研究の世界への発信などを引き続き積極的に進めていく. また, 国際委員会の活動に協力し, 他学会との協力体制強化, パンフレットの国際会議場などでの配布, AR 宣伝のためのポスターの制作と配布, ウェブの英語コンテンツ充実, 等を実施する.

IV. 調査・研究 (継続事業 4) [担当: 企画理事] (定款第 4 条 3 号)

1. 調査・研究専門委員会活動

以下の調査研究委員会, 研究専門委員会による活動を行う.

(1) 研究専門委員会

委員会名	委員長	発 足	種別
ロボット哲学研究専門委員会	上出寛子	2015 年 4 月	I 種
開かれた知能研究専門委員会	下田真吾	2014 年 9 月	I 種
インテリジェントホームロボティクス研究専門委員会	岡田浩之	2014 年 8 月	II 種
生活創政支援ロボティクス研究専門委員会	小笠原司	2013 年 5 月	II 種
データ工学ロボティクス研究専門委員会	大野和則	2012 年 4 月	I 種
ネットワークを利用したロボットサービス研究専門委員会	成田雅彦	2010 年 3 月	I 種
関西ロボット系若手研究者ネットワーク研究専門委員会	池田篤俊	2009 年 4 月	I 種
ヒューロビント研究専門委員会	松下光次郎	2009 年 4 月	I 種
ヒューマンセントリックロボティクス研究専門委員会	木口量夫	2008 年 4 月	I 種

北海道ロボット技術研究専門委員会	近野 敦	2008年4月	I種
カー・ロボティクス研究専門委員会	大日方五郎	2008年4月	I種
ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種
ロボティクスにおける空間の知能化及び構造化に関する研究専門委員会	新妻実保子	2007年1月	II種

## (2) 調査研究委員会

委員会名	委員長	発 足
廃炉に向けたロボットの調査研究と社会貢献に関する調査研究委員会	吉見 卓	2015年1月
産学連携調査研究委員会	小平紀生	2013年5月
広域災害対応に関する技術基盤調査研究委員会	浅間 一	2013年1月

## (3) 技術・カテゴリ別委員会

委員会名	委員長	発 足
ロボット教育事業計画委員会	琴坂信哉	2015年4月
建設ロボット委員会	栗栖正充	2013年10月

## V. 表彰(継続事業5) [担当:企画理事] (定款第4条4号)

## 1. 表彰

第34回学術講演会において学会誌論文賞, Advanced Robotics Best Paper Award, 実用化技術賞, 研究奨励賞, ロボティクスシンポジウム研究奨励賞, 功労賞およびロボット活用社会貢献賞の授賞を行う。また、本年度以降もFA財団の論文賞への候補論文の推薦, 財団法人東レ科学振興会の東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦を行う。学会員やロボット分野の発展にとって有益と思われる、その他の外部団体からの各賞の推薦依頼についても積極的に対応していく。

## VI. 国際(継続事業6) [担当:国際理事] (定款第4条5号)

## 1. 学術講演会における国際セッション

第34回日本ロボット学会学術講演会(2016年9月7日～9日, 山形大学小白川キャンパス)において, OS国際セッションを組織する。発表者には, 参加登録費を課すが, 登壇資格は問わない。

## 2. 国際交流活動

- (1) ARSU サミット会議の継続的な開催(第11回)
- (2) アジアロボットサミットの合意事項の推進
  - ・若手研究者ネットワーク
  - ・ロボット教育プログラムの確立とその標準化

## 3. 国際会議関連

本会にかかわる下記国際会議の共催/協賛, 運営への寄与とステアリング会議への代表の派遣を行う。

- ・RO-MAN2016 日程: 2015年8月26日～31日, 会場: コロンビア大学, ニューヨーク, 米国
  - ・IROS2016 日程: 2015年10月9日～14日, 会場: 大田市, 韓国
- RO-MAN2016では学際的研究を対象とした賞(RSJ/KROS Distinguished Interdisciplinary Research Award)のスポンサー(KROSと共同)となる。
- 会長, 国際担当理事, 事務局長が, IROS Steering Committeeに参加する。
- IROS2016では, 参加者に向けて企業がプレゼンを行うRSJ Power

Lunchを実施する。

## 4. その他

- (1) 日本ロボット学会の国際化に向けた取組みの実施
  - ・対アジア外交における戦略の立案(協調と競争のバランス付け)
  - ・IROS, RO-MAN等の国際会議での日本ロボット学会の広報
  - ・英語による広報活動の展開(HP, パンフレット)

## VII. 学術講演会(その他事業1) [担当:学術講演会理事] (定款第4条1号)

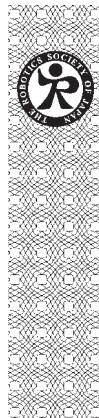
## 1. 学術講演会・シンポジウム等

- (1) 第34回学術講演会
  - 期 日: 2016年9月7日(水)～9日(金)
  - 会 場: 山形大学(小白川キャンパス, 山形市)
  - 実行委員長: 妻木勇一(山形大学)
  - プログラム委員長: 永谷圭司(東北大学)

## VIII. 講習会(その他事業2) [担当:事業理事] (定款第4条1号)

## 1. ロボット工学セミナー開講予定

- (1) 第97回ロボット工学セミナー「Industry 4.0時代の産業用ロボットに求められる物体操作計画と教示」
    - 期 日: 2016年4月(予定)
    - オーガナイザ: 横田 諭(佐世保高専)
  - (2) 第98回ロボット工学セミナー「3次元ビジョンの基礎から応用まで」
    - 期 日: 2016年5月(予定)
    - オーガナイザ: 子安大士(東京農工大学)
  - (3) 第99回ロボット工学セミナー「ロボットの作り方 ～移動ロボットの制御とROSによる動作計画～」
    - 期 日: 2016年6月(予定)
    - オーガナイザ: 渡辺敦志(東北大学), 嶋地直広(北陽電気)
  - (4) 第100回ロボット工学セミナー「強いロボット ～災害現場で活躍するロボットと基盤技術～」
    - 期 日: 2016年8月(予定)
    - オーガナイザ: 岡田 聡(日立製作所)
  - (5) 第101回ロボット工学セミナー「やわらかいロボット, やわらかい電子回路 ～生物規範ロボットからウェアラブル・デバイスまで～」
    - 期 日: 2016年9月(予定)
    - オーガナイザ: 新山龍馬(東京大学)
  - (6) 第102回ロボット工学セミナー「脳神経科学 & リハビリテーション・ロボティクス関連」
    - 期 日: 2016年10月(予定)
    - オーガナイザ: 島 圭介(横浜国立大学)
  - (7) 第103回ロボット工学セミナー「強いロボット ～極限自然環境下で作業を達成する技術～」
    - 期 日: 2016年11月(予定)
    - オーガナイザ: 中西洋喜(東京工業大学)
2. 共催・協賛等
- 本会に関連する国内行事の共催・協賛・後援について審査を行う。
- 国内共催事業(予定を含む):
- (1) 第21回ロボティクスシンポジウム
    - 期 日: 2016年3月17日(木)・18日(金)
    - 会 場: やすらぎ伊王島(長崎県長崎市伊王島)
    - 実行委員長: 山本郁夫(長崎大)
    - プログラム委員長: 鈴木高宏(東北大)
    - 現地実行委員長: 榊 泰輔(九州産業大)
  - (2) ロボカップジャパンオープン2016
    - 期 日: 未定
    - 開 催 地: 未定
  - (3) 知能ロボットコンテスト・フェスティバル2016
    - 期 日: 未定
    - 開 催 地: 未定
  - (4) 第16回レスキューロボットコンテスト



期 日：未定

開 催 地：未定

## IX. 法人処理 [担当：庶務理事]

## 1. 第6回定時総会

会 期：平成28年3月22日（予定）

会 場：本郷瀬川ビル（予定）

## 2. 委員会活動

下記の委員会を開催する。

委員会名	委員長 (1月～3月)	委員長 (3月～12月予定)
会誌編集委員会	王 碩玉	橋本浩一
欧文誌委員会	倉林大輔	平田泰久
事業計画委員会	小林英津子	和田一義
国際委員会	平井慎一	岡田昌史
研究協議会	吉見 卓	吉見 卓
第34回学術講演会実行委員会	妻木勇一	妻木勇一
表彰委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
第30回学会誌論文賞選考小委員会	吉見 卓	吉見 卓
第4回 Advanced Robotics Best Paper Award 選考小委員会	吉見 卓	吉見 卓
第21回実用化技術賞選考小委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
第9回功労賞選考小委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
第8回ロボット活用社会貢献賞選考小委員会	吉見 卓	吉見 卓
第31回研究奨励賞選考小委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
第6回ロボティクスシンポジウム研究奨励賞選考小委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
外部表彰選考小委員会	吉見 卓	吉見 卓
体制整備委員会	高西淳夫	高西淳夫
アドバイザリーボード	高西淳夫	高西淳夫
次世代構想委員会	未定	未定
会員5000名拡大計画委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
コンプライアンス委員会	高西淳夫	高西淳夫
情報システム管理委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
学術講演会管理推進委員会	吉見 卓	吉見 卓
学会発行誌構想検討委員会	澤 俊裕	澤 俊裕
情報発信企画委員会	吉見 卓	吉見 卓
ロボット研究開発アーカイブ実行委員会	澤 俊裕	澤 俊裕

## 3. 役員の選出

平成28年度の理事・監事を選出する。

## 4. フェロー、名誉会員の選任

フェロー、名誉会員の推薦を行い選任する。

## 5. 学会の基盤強化

新規委員会体制の下に、会員の拡大、論文発表の活性化をめざし、広報活動、産業貢献・異業種連携活動の強化、学会誌の充実を通して、学会の知名度向上をはかる。また、非専門家が入会しやすいしくみの構築や認知活動、高齢者層会員、学生会員が会員継続したくなる価値の創出、若年層への啓発活動を継続実施する。

## 6. 学会サービスの向上

情報発信企画委員会、ロボット研究開発アーカイブ実行委員会にて、学会ホームページのコンテンツの充実、情報サービスの拡大を進め、会員サービスの質の向上を図ると共に、学会の社会的価値の向上をはかる。

## 7. 規約等の制定・整備

体制整備委員会、コンプライアンス委員会にて、学会運営の効率化・適正化、学会員の利便性向上に必要な規約等の制定・整備を適宜実施していく。

## 8. 将来検討

次世代構想委員会等の活動により、本学会の将来展開に向けた方針や制度等に関する検討およびその具体化に取り組む。

## 9. 事務局運営

体制整備委員会の指導の下、中長期的な視点に立って事務局体制について検討・整備する。



【報告資料 2】

平成 28 年度予算計画

No. 1

収支予算書 (損益ベース) 平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日

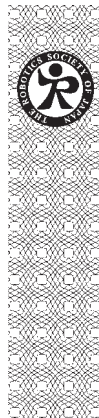
科 目	実施事業等会計							小計
	継 1 シンポジウム	継 2 学会誌	継 3 欧文誌	継 4 調査・研究	継 5 表彰	継 6 国際	共通	
I 一般正味財産増減の部								
1. 経常増減の部								
(1) 経常収益								
特定資産運用益	0	0	0	0	0	0	0	0
特定資産受取利息								
受 取 入 会 金	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取入金								
学生会員受取入金								
受 取 会 費	0	0	0	0	0	0	0	0
正会員受取会費								
学生会員受取会費								
賛助会員受取会費								
事 業 収 益	0	18,000,000	2,100,000	0	0	0	0	20,100,000
申込金事業収益								
参加費事業収益								
懇親会参加費事業収益								
展示料事業収益								
講義料事業収益								
セミナー参加費事業収益								
会誌掲載料事業収益		12,000,000						12,000,000
会誌広告料事業収益		4,000,000						4,000,000
会誌頒布事業収益		2,000,000						2,000,000
編集料事業収益			2,100,000					2,100,000
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0	0
受取国庫補助金								
受取地方公共団体補助金								
受取地方公共団体助成金								
受 取 寄 付 金	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 寄 付 金								
雑 収 益	0	0	0	0	0	0	0	0
受 取 利 息								
雑 収 益								
経 常 収 益 計	0	18,000,000	2,100,000	0	0	0	0	20,100,000
(2) 経常費用								
事 業 費	2,205,000	27,246,535	7,414,000	1,388,000	7,172,335	2,710,000	0	48,135,870
給 料 手 当		5,069,285			3,904,335			8,973,620
臨 時 雇 賃 金	400,000	37,000		88,000				525,000
退 職 給 付 費 用		376,975			266,100			643,075
福 利 厚 生 費		851,275			600,900			1,452,175
旅 費 交 通 費	47,000	353,000	47,000	246,000	115,000	350,000		1,158,000
通 信 運 搬 費	733,000	3,650,000	200,000	15,000	108,000	24,000		4,730,000
消 耗 什 器 備 品 費								0
消 耗 品 費	320,000	10,000	8,000	65,000	28,000			431,000
印 刷 製 本 費	200,000	14,599,000		48,000				14,847,000
賃 借 料	118,000			170,000				288,000
諸 謝 金	222,000	63,000		350,000				635,000
租 税 公 課		512,000	4,000					516,000
支 払 負 担 金	65,000		3,733,000	350,000		1,436,000		5,584,000
委 託 費		1,720,000	3,422,000					5,142,000
雑 費	100,000	5,000		56,000	2,150,000	900,000		3,211,000
管 理 費	0	0	0	0	0	0	0	0
給 料 手 当								
臨 時 雇 賃 金								
退 職 給 付 費 用								

福利厚生費								
会 議 費								
旅 費 交 通 費								
通 信 運 搬 費								
消 耗 什 器 備 品 費								
消 耗 品 費								
印 刷 製 本 費								
光 熱 水 料 費								
賃 借 料								
保 険 料								
支 払 手 数 料								
諸 会 費								
諸 謝 金								
租 税 公 課								
委 託 費								
雑 費								
経 常 費 用 計	2,205,000	27,246,535	7,414,000	1,388,000	7,172,335	2,710,000	0	48,135,870
評 価 損 益 等 計	-2,205,000	-9,246,535	-5,314,000	-1,388,000	-7,172,335	-2,710,000	0	-28,035,870
当 期 経 常 増 減 額	-2,205,000	-9,246,535	-5,314,000	-1,388,000	-7,172,335	-2,710,000	0	-28,035,870
2. 経常外増減の部								
(1) 経常外収益								
経 常 外 収 益 計	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用								
経 常 外 費 用 計	0	0	0	0	0	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0	0	0	0	0	0
他 会 計 振 替 額	2,205,000	9,246,535	5,314,000	1,388,000	7,172,335	2,710,000	0	28,035,870
引 当 金 等 増 減 額	0	0	0	0	0	0	0	0
法 人 税 等 課 税 前 増 減 額	0	0	0	0	0	0	0	0
財 産 増 減 額	0	0	0	0	0	0	0	0

No. 2

収支予算書 (損益ベース) 平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 12 月 31 日

科 目	その他会計				法 人 会 計	内 部 取 引 消 去	合 計
	他 1 学 術 講 演 会	他 2 講 習 会	共 通	小 計			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
特定資産運用益	0	0	0	0	6,000	0	6,000
特定資産受取利息					6,000		6,000
受 取 入 会 金	0	0	0	0	500,000	0	500,000
正会員受取入金					100,000		100,000
学生会員受取入金					400,000		400,000
受 取 会 費	0	0	0	0	42,296,000	0	42,296,000
正会員受取会費					29,860,000		29,860,000
学生会員受取会費					4,596,000		4,596,000
賛助会員受取会費					7,840,000		7,840,000
事 業 収 益	17,710,000	3,168,000	0	20,878,000	0	0	40,978,000
申込金事業収益							0
参加費事業収益	12,615,000			12,615,000			12,615,000
懇親会参加費事業収益	2,455,000			2,455,000			2,455,000
展示料事業収益	2,210,000			2,210,000			2,210,000
講演料事業収益	430,000			430,000			430,000
セミナー参加費事業収益		3,168,000		3,168,000			3,168,000
会誌掲載料事業収益							12,000,000
会誌広告料事業収益							4,000,000
会誌頒布事業収益							2,000,000
編集料事業収益							2,100,000
受取補助金等	2,500,000	0	0	2,500,000	0	0	2,500,000



受取国庫補助金	1,500,000			1,500,000		1,500,000
受取地方公共団体補助金	1,000,000			1,000,000		1,000,000
受取地方公共団体助成金						0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0
受取寄付金						0
雑 収 益	0	0	0	13,796,000	0	13,796,000
受取利息				36,000		36,000
雑 収 益				13,760,000		13,760,000
経常収益計	20,210,000	3,168,000	0	23,378,000	56,598,000	100,076,000
(2)経常費用						
事業費	17,198,520	3,024,000	0	20,222,520	0	68,358,390
給料手当	655,270			655,270		9,628,890
臨時雇賃金	2,000,000	165,000		2,165,000		2,690,000
退職給付費用	22,175			22,175		665,250
福利厚生費	50,075			50,075		1,502,250
旅費交通費	300,000	402,000		702,000		1,860,000
通信運搬費	120,000	18,000		138,000		4,868,000
消耗什器備品費						0
消耗品費	100,000	1,400,000		1,500,000		1,931,000
印刷製本費	4,825,000	59,000		4,884,000		19,731,000
賃借料	2,400,000	175,000		2,575,000		2,863,000
諸謝金	150,000	675,000		825,000		1,460,000
租税公課	365,000	62,000		427,000		943,000
支払負担金	5,000,000	24,000		5,024,000		10,608,000
委託費	1,181,000	16,000		1,197,000		6,339,000
雑費	30,000	28,000		58,000		3,269,000
管理費	0	0	0	0	31,494,610	0
給料手当				8,573,110		8,573,110
臨時雇賃金				2,874,000		2,874,000
退職給付費用				221,750		221,750
福利厚生費				1,000,750		1,000,750
会議費				224,000		224,000
旅費交通費				1,000,000		1,000,000
通信運搬費				1,313,000		1,313,000
消耗什器備品費				239,000		239,000
消耗品費				420,000		420,000
印刷製本費				901,000		901,000
光熱水料費				439,000		439,000
賃借料				6,955,000		6,955,000
保険料				6,000		6,000
支払手数料				430,000		430,000
諸会費				251,000		251,000
諸謝金				1,200,000		1,200,000
租税公課				41,000		41,000
委託費				4,090,000		4,090,000
雑費				1,316,000		1,316,000
経常費用計	17,198,520	3,024,000	0	20,222,520	31,494,610	99,853,000
評価損益等調整前 当期経常増減額	3,011,480	144,000	0	3,155,480	25,103,390	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	3,011,480	144,000	0	3,155,480	25,103,390	223,000
2. 経常外増減の部						
(1)経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2)経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替額	-3,011,480	-144,000	0	-3,155,480	-24,880,390	0
税引前当期一般 正味財産増減額	0	0	0	0	223,000	223,000
法人税、住民 税及び事業税				70,000		70,000
当期一般正味 財産増減額	0	0	0	0	153,000	153,000

【第3号議案】

平成28年度役員の内

日本ロボット学会定款第5章、役員選任規程および役員候補推薦規程に従い、下表右列の9名を平成28年度新役員として推挙したい。

任期	平成28年度役員		
	平成26年3月～ 平成28年3月	平成27年3月～ 平成29年3月	平成28年3月～ 平成30年3月
理事		高西淳夫	
理事		沢 俊裕	
理事		吉見 卓	
理事		山本健次郎	
理事	沢崎直之	細田祐司	嶋地直広
理事	井上康之	奥田晴久	富田浩治
理事	石田勇一	久保田哲也	曾根原光治
理事	王 碩玉	橋本浩一	山下 淳
理事	倉林大輔	平田泰久	望山 洋
理事	小林英津子	和田一義	山野辺夏樹
理事	石川 潤	妻木勇一	松元明弘
理事	平井慎一	岡田昌史	柴田智広
監事	平井成興	小平紀生	大隅 久